

2019 沖縄インターハイと定年とコロナ騒動 (2020.7.29~8. 31)

2019. 沖縄インターハイ。まさに、私の定年の年にあたるイベントであった。

この年を最後に高体連飛び込み委員長も時期後輩に譲ろうと決めていた。

リハーサル大会のため視察での2018年。7月西日本豪雨で被害が出た。当日、出張の着替えをして朝食をとっていると、バス会社から電話がかかってきた。雨のためバスは走っていないとのこと、伊丹空港から飛び立つ沖縄行きの便もこの状況ならば、飛んではいないであろう。結局、沖縄に電話を入れて欠席することにせざるを得なかった。現場、沖縄は快晴で絶好の試合日よりであった。

いよいよ、当年いざ出陣。なんとまた今度は台風が西日本を襲った。しかもその勢いは弱まらずずっとその場所に停滞しているという状況であった。

この間まだと去年のこともあり、またいけなくなってしまう。インターハイに委員長がいないという状況は避けなければならない。私は、当初予定していた便をキャンセルし、出発日を前倒しして、出雲空港から福岡空港、福岡空港から沖縄空港への便を選択した。1日早く沖縄入りするがホテルは大丈夫かなどいろいろ心配事があった。しかし、沖縄は温かく迎え入れてくれた。予定より早く入ったので、準備状況、打ち合わせなどがあり、視察をしていなかった事もあり、丁寧に聞き入った。そうこうしていると案の定、開会式に間に合わないチームが数チームいることがわかった。試合時間の変更を考えなければならない。十分な練習時間を確保するため、1日目競技時間と競技種目、男子3mシンクロ競技を3日目に変更それによって、1日目と3日目の時間変更を行った。要項の変更ということで高体連飛び込み委員長から日本水泳連盟の鈴木浩二先生へ連絡。競技者ファーストで実施してほしいとのことで変更内容も実行委員会を通じて各チームに連絡された。遅れているチームにも連絡を取り、安心して来沖縄していただいた。もしも、私ごとですが沖縄入りが遅かったなら、こういう処理に時間をとっていたであろう。

大会は無事終了し閉会式があった。「以上をもちまして、令和元年度全国高校総合体育大会水泳競技の閉会を宣言します。来年は水球が宇都宮、飛び込みは茨城県でお会いしましょう。沖縄県、那覇市のみなさんありがとうございますございました。」

秋に行われた、来年度のインターハイ開催県で常任委員会が茨城県水戸市を会場に開催された。来年で定年なので委員長を山形県米沢市の藤原浩君に引き継ぎをお願いした。この時点では、何の心配もなく予定通りに実施される予定であった。すべては予定通りに・・・。

2019年12月に入って、思わぬ難敵が日本いや世界を襲った。新型コロナウイルスである。年末いや10月くらいから(ある情報だと、9月くらい)からよく聞かれるワードに入っていた。

年が明けた頃、事態は深刻なものになりつつあった。(感染がどんどん広がっていったの

だ。鳥取県は当初にはあまり広がらなかったというか感染者もいなかった。7月8月に入った頃感染が広がり始めた。) 学校では卒業式、終業式、入学式などなどに影響がでた。例年の卒業式ではなく3密を防ぐためあらゆる手を打っていた。結局、終業式は行われ、退職の先生のあいさつも例年のごとく行われた。定年退職は私1人であったため、移動の職員の前
に式が行われた。さらば米子西高。

4月に入ってからは米子南高等学校へ再任用で勤務することになっていた。例年になく
ってという言葉がよく聞かれるが南高への勤務は初めてであったので「例年になく」が素直に
入ってきた。

4月には学校で授業があったり、臨時休校であったりした。ようやく落ち着きを取り戻し
たのは5月中旬あたりであろうか。年度当初予定されていた県レベルの諸会議はことごと
く中止になった。鳥取県にはまだウイルスの広がりがなかったので、皆びくびくしながら
日々を過ごした。学校内のトイレの手すり、ドア、自販機のボタンの消毒など4月から今ま
で毎朝の日課である。消毒した汚物入れなどのゴミ捨ても日課になっている。そんなこな
なで、夏休みも日にちを短縮して約3週間になった。学校祭の準備がある。9月1日2日であ
る、体育祭は3日に予定されていたが日にちをずらす方向で審議されている。その間、安倍
首相の辞任会見があった。次の首相は誰になるか。残暑厳しい米子市の気温が日本一となり
38.2度(38.4度が次の日で日本2位)まで上がった。新しい日常を作り始めなければ、
それになれていかななくてはならない。

コロナの終息がまだまだ先のことであると思うが、コロナのことも視野に入れて物事に
取り組んでいかななくてはならない。

令和インターハイを振り返って

安永三郎9/4 (2019)

令和になって初めてのインターハイは、沖縄県那覇市奥武山水泳場で飛び込み・水球とと
もに8月17日から20日までおこなわれた。台風10号の影響で沖縄入りすることができな
い状況のチームもいた。そのチームのダイブシートが間に合わないためにFAXで受け付け
た。現地に着いてからシートは提出するようにした。練習時間を確保するために、16日の
開会式後の練習を19時まで認めた。第1日目の競技日程を変更し、女子高予選を9:30
から11:30に変え、男子3mシンクロを3日目に入れ替えた。第3日目の女子飛び板決勝
を15:00からとした。これらの変更をして、一息ついた第1日目ははずであった。雷の音。
今後の、落雷などによる中断判断は地元実行委員会と日本水泳連盟、坂元副会長が判断をさ
れた上で高体連委員長、審判長にいき試合を中断するという話に収まった。落雷対応手順も
確認した上で試合は日を重ねた。最終日、男子高予選でのこと、強風であったため、選手は
立ち直しをした。競技前に「立ち直しは強風のためだとアピールをしてくれれば認める」

(FINA の国際大会でもそういうことが認められている)ということを選手に通告さえしていれば、5 分間の中断はなかったであろう。それが立ち飛びであろうと、逆立ち飛びであろうと選手がアピールをすることが明確にされれば問題はなかった。女子高予選の時、水球のボールが飛び込みプールに飛び込んできた。水球と飛び込みのプールの境には防球ネット代わりのボードが用意されていたが、ゴールポストに当たったボールがそれを飛び越えの侵入であった。もちろん試合は中断した。何が起こるか予測もしなかったことが現実に起きたのだ。あらためて 気を引き締める自分に気づいた。